

作業療法士のコンピテンシーに関する一考察

會田玉美

(Tamami AIDA)

【要約】

作業療法士のコンピテンシーとは何か、その特徴を明らかにするために、作業療法部門の管理に関わるベテラン作業療法士4名を対象に半構成的面接を実施した。KJ法に準拠し、165分の逐語記録からコンピテンシーに関する発言カードを作成、その63枚のカードを①客観性②状況判断力、③人間理解力、④コミュニケーション能力、⑤話を聞く力、⑥向上心、⑦情熱、⑧行動力、⑨人を動かす技術、⑩創造性の10のコンピテンシークラスターに分類した。さらにクラスターを内容的にまとめ、3つのキーワードを作成した。作業療法士のコンピテンシーのキーワードは、自分の果たすべき役割と対象者の状態を正確に判断する「客観性」と対象者の心理、個人因子、環境因子を深く理解、共感し、作業療法の目的である対象者の生活、QOLの向上にむけてアプローチするための「人間理解力」と対象者により最適な満足度の高い活動を提供するための「創造性」であった。

キーワード：作業療法士、コンピテンシー、インタビュー

I. 研究の背景

コンピテンシー (competency) とは一般的に「高成果実現行動特性」と訳されている。優秀な仕事の結果を生み出す人はどのような行動をとっているか、という行動特性を指す。ハーバード大学の心理学者であるデイビッド・C・マクレランド (David C. McClelland) 教授を中心にしたグループが、1970年代初めに米国務省から「外交官 (外務情報職員) の採用時のテスト成績と、配属後の実業績に相関が見られない」ことに対する調査依頼を受けて行った研究に由来する。マクレランドは、明白に高業績者を選定し、後にBEI (Behavioral Event Interview) と呼ばれる質問手法を用いて、高業績者の考えや行動を明らかにしたうえで、その事実から高業績につながる要因を抽出、数値化できる尺度を作り上げた。マクレランドはハイパフォーマーの特性をコンピテンシーと呼び、外交官においては「異文化に対する感受性がすぐれ、環境対応力が高い」「どんな相手に対しても人間性を尊重する」

「自ら人的ネットワークを構築するのがうまい」と発表した¹⁾。その後、企業では高い業績を上げている社員の専門技術、ノウハウ、基礎能力等を細かに分析することによって、その行動特性を明らかにし、採用、育成、人事評価など、組織のパフォーマンスと質の向上に役立ててきた。

医療・福祉の分野でも職場の効率や業務の質の管理、新任教育において、各種のマニュアルによる行動基準が設けられ、その職場におけるミスのない行動が明らかにされてきた。接遇マニュアル、感染予防マニュアル等がそれにあたる。しかしこれらの行動基準は必要最低限の決まりごとであり、これらの基礎を遵守して業務を行うことが対象者の満足や治療およびケアの質を上げることに直接つながるものではない。新任者にとって経験者の持つ着眼点や気づきに触れることが質の高い行動特性を学ぶ機会であるため、多くの職場では、新任者が一定期間、経験者の指導の下に実際の行動、その着眼点、その質の高い行動様式を学ぶ方

式を採用している。

厚生労働省は「新人看護職員研修ガイドライン」にて「看護職員として必要な基本姿勢や態度」の4領域、「技術的側面」の13領域、「管理的側面」の7領域を示しており、これに基づいた新任研修および技術指導例を通達している。国家試験やマニュアルではない具体的な行動基準を示している²⁾。また、看護分野のコンピテンシー研究として、わが国でも救急医療に働く看護師のコンピテンシー³⁾、皮膚・排泄ケア認定看護師のコンピテンシー⁴⁾に関する研究がみられている。一方、作業療法の分野では日本作業療法士協会が作業療法ガイドラインを策定しているが、作業療法部門の備えるべきごく基礎的な項目をあげたもので具体的なものではなく、作業療法士の行動基準を表したものはまだ作成されていない。作業療法士の行う治療は、看護師の剃毛や清拭のように対象者に対して直接行為するものばかりではなく、対象者に活動してもらうという対象者の自主性を利用する部分が多い。またひとつの治療活動は多義的であること、効果を他職種と共有していることなどの理由から、作業療法士として有能な具体的な行動が明確にされてこなかったと予測される。そのことは作業療法士の能力を客観的に正しく評価することから遠ざけ、ひいては作業療法士全体の育成にも影響を与えたと考えられる。

作業療法士のコンピテンシーに関する研究は、わが国ではまだ見受けられないが、海外ではオーストラリアの標準的な作業療法士のコンピテンシー作成の方向性をフォーカスグループインタビュー⁵⁾によって検討したものがみられている。そこでは作業療法士のコンピテンシーを「contemporary practice」「paradigms」「approaches」「frameworks」のカテゴリーを用いて明確にし、速やかに公開していく必要があるとしている。その他には作業療法学生の文化的なコンピテンシーについての研究⁶⁾がいくつかみられている。コンピテンシーはその国の保健医療福祉制度の影響を大きく受ける。そのため、わが国独自の作業療法士のコンピテンシーを明らかにすることが重要と考えられる。

作業療法士のコンピテンシーとは何か、それはどのような行動特性を指すのかを明らかにすることは、作業療法士の採用、育成、人事評価など、質の向上に役立つ。そして、どのような行動特性を持つ作業療法士が有能なのかを知ることは、その様な行動特性を持つ人物を育成する、具体的な目標像を明確にするために

有益である。

II. 方法

本研究は作業療法士のコンピテンシーとは何か、その具体的な行動特性とは何かを明らかにするために以下のようなプロセスで研究を行った。

1) 対象

地域の中核病院に勤務している、作業療法部門の管理的業務を兼任し、人事管理、採用、教育に関わる作業療法士4名を対象とした。研究の趣旨を説明し、対象者全員から同意を得た。

2) 方法

筆者が面接者を兼任し、対象者に半構造化面接を行った。場所は対象者の勤務場所にて実施した。質問項目は有能であることを表す事柄を広く収集するために、以下の項目とした。①「有能な作業療法士だと考えた具体的な行動とその理由」、②「有能ではないと考えた具体的な行動とその理由」、③「有能な作業療法士とはどのような作業療法士か」④「仕事をしていく上で大事に思っていることは何か」である。ICレコーダーとメモによる記録、および逐語録を作成した。

3) 分析方法

データやアイデアをカードを使ってまとめる問題解決法であるKJ法⁷⁾に準拠し、逐語録から有能な作業療法士のコンピテンシーに関する発言をピックアップし、カードを作成した。そのカードを使用して近似した内容にグループ分け（クラスター：コンピテンシーの群¹⁾）をした。クラスターには発言カードの内容を表す名前をつけ、クラスター同士の関連性を検討、クラスターの集団にキーワードをつけて図式化した。

III. 結果

1) 対象者の内訳

対象者の属性を表1に示す。経験年数は10年から30年、いずれも急性期から維持期までのすべてのリハビリテーションサービスを提供する医療法人および団体の作業療法部門の責任者であった。

表1. 対象者の属性

対象者	インタビュー日	インタビュー時間 (分)	経験年数	性別
A	22年9月10日	45	22年	女
B	22年9月12日	35	28年	男
C	22年9月15日	40	30年	女
D	22年9月17日	45	10年	男

2) インタビュー概要

インタビューは2010年9月10日から9月17日の期間に対象者の勤務終了後にその勤務する施設にて実施した。インタビュー時間は30分から45分、総時間数

は165分であった。

3) インタビューデータ分析結果

収集されたコンピテンシーに関する発言のカードは全63枚であった(表2)。

表2. 作業療法のコンピテンシーグループ分けとキーワード

作業療法士のコンピテンシー発言カード	クラスター	キーワード
物事を客観的に見ることができる 客観的な視点、考え方ができる 客観的で自分本位になったりしない 自分の能力を感じとれる 体調、心理状態を自己管理できる 自分から解決に向けて動く道筋を考えられる 現実的に不可能なものを目指さない 自分の感情をコントロールできる	客観性 (8)	客観性
その場の状況を察知し期待されていることを理解できる その場の空気やスピード感を感じ、そこで果たす役割をすばやく察知できる 人の表情が読める、感じていることが、すぐわかる 対象者の気持ちをちゃんとわかった上で技術がある その人がどう感じているかを意識できる 急性期では患者さんの人柄とか状態を早めに把握できる 表面上の真意を早めに察知できる能力がある 相手の様子をちゃんと見ている 相手の動きを予測できる 空気が読める	状況判断力 (10)	
話の中にこめられた対象者固有の出来事を捕まえられる ハウツームーブではなくハウツーリブを考える その人の個人因子・環境因子を大事にする 快・不快、喜怒哀楽などの普通の感覚を大事にする 対象者が決めた目標を尊重する 対象者の心を見ることができ 対象者の生活を見ることができ 障害じゃなくて人間を見ることができ 対象者の環境因子を捉えることができ 対象者の深い苦しみを想像することができ	人間理解力 (10)	人間理解力
コミュニケーション能力が高い 語りを聞く力、語りを引き出す力を持っている 対象者を大事にして、信頼関係を作ることができ 当事者や家族がのぞむ明確な目標を持つチームに協力できる 頭で考えるよりも先に行動することができ 実行力がある	コミュニケーション能力 (4)	
対象者の訴えをしっかりと聞くことができる 自分がわからないときは教えてもらえるようお願いができる わからないことが聞ける ひとの話を聞ける わからないことを素直に聞ける 話を素直に聞ける	話を聞く力 (8)	
納得がいくまで試行してみることができ 実際に行動した経験が積み重なっている 失敗してもあきらめずに努力する 責任感がある 自分が行った治療の結果を確かめることができる 自己像を認識し、改善しようとする	向上心 (6)	
対象者を何とかしてあげたいという強い思い、情熱がある 集団を運用できるエネルギーがある 患者を楽しませることができ 作業療法を楽しめる	情熱 (4)	
頭で考えるよりも先に行動することができ 実行力がある	行動力 (2)	
教えられたことを鵜呑みにするだけではなく応用力がある 工夫ができる 客観的に見て工夫する 新しいアイデアがある イメージネーション(想像)とクリエイティビティ(創造)の両方が備わっている 治療の中に診療報酬の基準の中でのサービス提供を越えた発想がある 先見の明がある 診療報酬の規定に縛られない発想がある	創造性 (8)	創造性
向かない分野でも意図して関わることで対象者を変化させることができる 急性期では訓練おはじめと終わりにメリハリがある 患者さんの状態に合わせてトーン、スピードを変える 抑揚がある、出す・引く、メリハリなどいろいろな声の出し方ができる 急性期ではある程度スピードを速くする	人を動かす技術 (5)	

() 内はカード数

全63枚のカードを10のクラスターに分類し、①客観性②状況判断力、③人間理解力、④コミュニケーション能力、⑤話を聞く力、⑥向上心、⑦情熱、⑧行動力、⑨人を動かす技術、⑩創造性のクラスター名を付与した。

①客観性、②状況判断力は客観的な視点、思考により、的確に対象者の状態や状況を判断することができ初めて対象者を正しく把握することができると考えられたため、この2つのクラスターのキーワードを「客観性」と命名した。

③人間理解力、④コミュニケーション能力、⑤話を聞く力⑥向上心⑦情熱は、コミュニケーション能力、対象者や周囲の言葉をよく聞く力、向上心と情熱があって初めて人間理解力が向上すると考えられたため、この5グループのキーワードを「人間理解力」と命名した。

⑨人を動かす技術⑩創造性は、対象者により良い作業療法を提供するときに必要なクリエイティブな資質を表し、⑧行動力はそれを実現する実行力が必要であるため、「創造性」とキーワードを命名した(表2)。

以上の結果より、作業療法のコンピテンシーを図式化した(図1)。

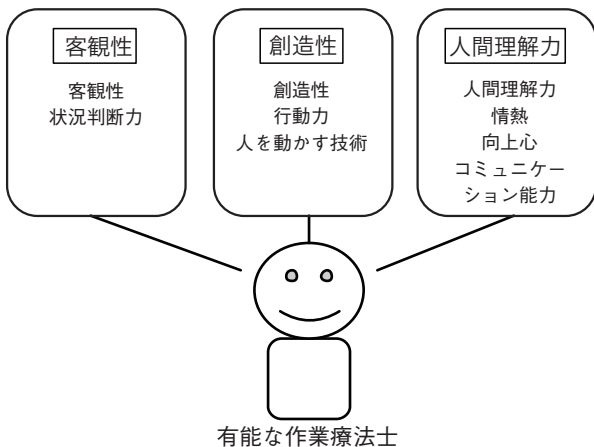


図1. 作業療法のコンピテンシー概念図

IV. 考察

1) 作業療法士のコンピテンシーのキーワード

作業療法士のコンピテンシーのキーワードは「客観性」、「人間理解力」、「創造性」の3つと考えられた。

キーワード「客観性」は思考の習慣および性格に属し、対象者および自己を論理的に把握し、評価、治療を進めていくための基本的な要素である。「客観性」は

対象者の治療を効果的に進めるばかりでなく、対象者の状態、心情をいち早くキャッチし適切に対処するという、リスク認識の基本である側面も大きい。対象者の気持ちや動きを客観的に把握することによって対象者の心身に及ぶ可能性のあるリスクを察知し、未然に対処することを可能にする。また対象者との信頼関係を早く構築し、早期に対象者のモチベーションや満足度を高めるのに効果があると考えられる。

キーワード「人間理解力」は対象者の心理、個人因子、環境因子を深く理解し、対象者に共感し、作業療法の目的である、対象者の生活、QOLの向上にむけてアプローチするためのもっとも重要な感性を含んでいる。人間理解力を高めるためには、対象者に人生を語らせるためのコミュニケーション能力、対象者や同僚、指導者の話を素直に受け止める力、失敗を恐れない向上心、自ら楽しむことで対象者の治療に向き合う情熱が必要である。また、それらはチームで仕事を進める資質とも考えられる。キーワード「人間理解力」は意欲や態度、我慢強さや人間性、使命感といったその作業療法士の個人、社会人としての人格を形成している部分であると考えられる。

キーワード「創造性」は、工夫をする、新しい、柔軟な発想を指し、対象者により最適な、より満足度の高い活動(作業プログラム)を提供するために重要な自由度の高い能力である。これは感性およびセンスに依存する部分が大きく、知識や机上学習よりも人生経験、趣味、体験などから学ぶことによって高められる資質である。

2) 他職種との比較

新人看護師の感情や思考の性質に関するコンピテンシーの中で、「冷静に自己を見つめ、感情的にならない」という要素があげられている⁸⁾。本研究の結果で見られる「客観性」はそれと同意のコンピテンシーとみられる。また、救急看護師のコンピテンシーでは「仕事達成志向」、「共同的対人関係」、「リーダーシップ」、「自己啓発」の4つをコンピテンシーとしてあげている。「共同的対人関係」のディクショナリー(行動の尺度)として「共感性、誠実さ、コミュニケーション力、関係を築く力、コンフリクトの解決力」³⁾が上げられており、コミュニケーション能力、話を聞く力、行動力などがクラスターとして上げられた本研究のコンピテンシーと内容的には殆ど同様とみられる。また救急看護師の「自己啓発」のクラスターに見られるデ

イクシオナリーは「論理性、役割自覚、ストレスコントロール」であり、本研究の発言カードの内容にも「客観的な視点、考え方ができる」「その場の状況を察知し期待されていることを理解できる」「体調、心理状態を自己管理できる」など近似したものがみられている。しかし、救急看護師のコンピテンシーに見られる「リーダーシップ」を表すクラスターや発言カードが本研究ではまったく見られなかったことが大きな違いとしてあげられる。作業療法士の仕事の中のグループリーダーとしての業務は、現在、管理者のみに限られている可能性がある。またリハビリテーションはチーム医療と呼ばれているが、作業療法は医師のリーダーシップのもとに対象者に対してそれぞれが違う能力を発揮する、職人的な仕事内容であることが考えられる。近年の作業療法士有資格者増を受けて、今後コンピテンシーも変化していく可能性がある。また、もうひとつの大きな違いとして看護師では「仕事達成志向」には専門的技術能力³⁾が上げられているが、本研究では作業療法の技術に関する発言カードおよびクラスターは見られていない。しかし、それに対応するものとして、人間理解力のクラスターがみられ、キーワードとしてもあげられた。作業療法士の専門的技術に対応するコンピテンシーは「人間理解力」であり、対象者への共感、人間理解のもとに対象者の心、生活、QOLをみる力であると考えられる。

本研究で見られた「創造性」のクラスターおよびキーワードは救急看護師³⁾、皮膚・排泄ケアの看護師のコンピテンシー⁴⁾、Spencer & Spencerの一般的なコンピテンシー¹⁾にも見られていない。作業療法は対象者に最適の治療である活動を適用する。活動を選択することは、対象者の主観的、個人的、環境的要素の影響を大きく受ける自由度の多い選択である。そのため、作業療法士は対象者に対する人間理解力と感性、センスを総合して活動を選択するため、「創造性」がコンピテンシーとして重要であると考えられる。また人を動かす技術のクラスターも他の研究では見られていない。ここではリーダーシップを指すのではなく、対象者の活動を引き出す技術を指している。これも、作業療法士が何らかの処置を対象者に実施するだけでなく、対象者が能動的に活動することをもって治療とする作業療法士のコンピテンシーの特徴と考えられる。

V. まとめと今後の展望

作業療法士のコンピテンシーを明らかにすることは、作業療法士の養成、新人作業療法士の採用、教育および実務研修に役立つ。本研究では作業療法士のコンピテンシーのキーワードは、「客観性」、「人間理解力」、「創造力」にあることが示唆された。

本研究では作業療法部門管理者として身体障害分野に勤務する4名の作業療法士に対するインタビュー結果から作業療法士のコンピテンシーを検討した。したがって、精神障害および発達など他の分野に勤務する作業療法士のコンピテンシーについては言及できない。また、発言カードおよびコンピテンシークラスターを多く収集するため、4名の発言に共通する部分の抽出、検討を行わなかった。そして、作業療法部門の管理者であるために部下の育成の視点が強調されていた可能性がある。今後はインタビュー対象者を増やし、作業療法士に一般的に当てはまる具体的な行動を示すコンピテンシーディクシオナリーを明らかにしていく必要がある。さらに作業療法士の質的向上のために、経験年数別の自己評価の作成につなげていくことが必要と考えられる。

文献

- 1) Lyle M. Spencer, LM., Spencer, SM. 著：梅津祐良、成田攻、横山哲夫訳：コンピテンシーマネジメントの展開—導入・構築・活用。生産性出版（2001）。
- 2) 厚生労働省ホームページ：<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/12/s1225-13.htm>
- 3) 作田裕美, 坂口桃子：救急初療に働く看護師のコンピテンシーの特徴。日臨救医誌, 11, 14-20（2008）
- 4) 西沢知恵, 真田弘美, 萱田真美：皮膚・排泄ケア認定看護師の褥瘡管理コンピテンシーモデルの構築。褥瘡会誌10, 177-121（2008）
- 5) Rodger, S., Banks, CM., O'Brien SM., Martinez, K.: A national evaluation of the Australian Occupational Therapy Competency Standards A multistakeholder perspective. Australian Occupational Therapy Journal 56, 384-392（2009）
- 6) Murden, R., Norman, A., Ross, J., Sturdivant, E., Kedia, M., Shah, S.: Occupational therapy students' perceptions of their cultural awareness and competency. Occupational Therapy International 15, 191-203（2008）
- 7) 川喜田二郎：続発想法—KJ法の展開と応用。PP2, 中公新書（1970）
- 8) 仁木智織：コンピテンシー評価で接遇の基本を身につける—新人看護師が理想像を見につける意味。Nursung Today 25, no6, 21-23（2010）